

言語聴覚療法（スタッフ数：3名）

話す、聞く、表現する、食べる。誰でもごく自然に行っていることが、様々な病気や加齢などで不自由になることがあります。また、お子様の発達段階でことばや食べる事で問題が起こる方がいます。こうした問題の本質やメカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。

またご家族や施設の方などにはことばや飲み込みの状態を説明し、理解を求め、より良い環境を整えます。



言語聴覚療法の主な対象

言語障害

「上手く話せない」
「話が理解できない」
「文字が読めない」
「どもる」



高次脳機能障害

「忘れやすい」
「気が散りやすい」
「集中して取り組めない」
「手順通りに進められない」



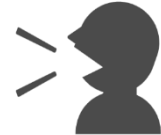
音声障害

「声が出にくい」
「声がかすれる」
「小さくなる」



構音障害

「発音がはっきりしない」
「言えない音がある」



嚥下障害

「上手に嚙めない」
「上手く飲み込めない」
「むせる」



言語発達遅滞

「ことばがでない」
「ことばが遅れている」
「ことばのキャッチボールができない」
「発音がはっきりしない」
「どもる」



コメディカルスタッフとして活動

NST 回診、歯科回診、摂食嚥下ミールラウンド、外科カンファレンス、カンサーボードなど